

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	特別ニーズ教育と通常教育とのカリキュラム接続に関する研究
------	------------------------------

研究代表者

氏名 村山 拓	所属 総合教育科学系 特別支援科学講座	職名 講師
------------	---------------------------	----------

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

本研究では、日米の特別ニーズ教育やインクルーシブ教育の取り組みの教授学的な意義と課題を探るため、カリキュラムや学習単元に即した、いわゆる通常学校と特別学校との授業実践上の接続、すなわち特別なニーズを持つ生徒が、いわゆる非障害児童生徒と同じ学習課題に取り組むこむ学習形態をとっている学校の事例の検討を行うとともに、米国内の事例の集積を進めているデータベースを活用し、その実態と課題を実証的に分析することを試みた。

特別支援教育の展開とともに、インクルーシブ教育の実践的要請はますます高くなっているが、とりわけ、学校・教師の側に求められている変化の一つとして、School Development (学校改善) があり、英語圏でのインクルーシブ教育を推進する上での重要な課題と考えられている。しかしながら、先行研究の検討の結果、これらの研究は制度や政策、学習者の在籍状況に主眼を置いており、教育機会の拡充や均等化の理論的根拠を示すという点では、重要な成果があると考えられるものの、学習活動の実態に十分迫れているとはいえない状況にあることが分かった。そこで、本研究では、授業や学習に即したミクロな分析・検証を行うことによって、それらの課題を克服するとともに、授業実践への示唆を得ることをねらいとした。

まず、事例の質的分析として、関東近県で調査に協力してくれた学校を訪問し、支援を要する児童生徒がいわゆる非障害児と同じ課題に協働的に取り組んでいる事例の観察、音声記録、写真(ただし、保護者と学校の希望により加工した)等のデータの収集を行った。とりわけ分析に用いたのは、観察記録と音声記録で、学習者の発言や協働学習のグループでの他の児童生徒との応答的やりとりをもとに、学習の経過をたどることとした。その際、いわゆる通常学級における要支援児童生徒について、設備面、情報保障面以外での、個別学習の確保や、集団指導における個別の配慮の実態が明らかにする必要があると考え、英米圏で指摘されている、「カリキュラム・アクセス」の概念を参考に、分析、検討を行った。

次に、米国マサチューセッツ州、イリノイ州を中心とした、カリキュラムの事例収集を行い、特別ニーズ教育といわゆる通常教育の接続の実態と課題を、カリキュラムベースで検討した。教科教育の単元や授業形態について、いわゆる通常学級との接続への言及の有無と、その接続因子を確認し、学習活動と教育方法が、両者の接続にどのように作用しているのかを事例検討した。イリノイ州のカリキュラム・ガイドについて概要を示すと、具体的に非障害児童・生徒との協働、合同の学習を念頭においた学習プランに具体的に言及している学習指導領域は、「社会関係」、「実用的技芸」、「音楽」などであり、「数学」や「美術」については、積極的な言及は見られず、学習者の実態や認知に合わせた学習プランが強調されていた。

さらに、米国の特別ニーズ教育とインクルーシブ教育に関連するデータベースを活用し、要支援児童生徒のカリキュラム・アクセスの実態を検討した(購入可能な統計パッケージの都合により、単純比較のみを実施した)。その中で、特別学校と通常学校に共通して登場する学習活動に関する語の出現頻度や、学習単元・形態による特徴を見だし、いずれの場合も個別の学習と実用性を重視した学習内容、学習形態が強調されていることを確認した。

特別ニーズ教育と通常学校での教育について、授業場面や学習単元の内容記述に即して分析することによって、カリキュラム上の接続の実態と課題について、一定の知見が得られたと考えられ、今後、交流及び共同学習の単元開発やユニバーサル・デザインに基づく授業づくりの教授学的な視点を提供することが期待される。

### 研究成果発表方法

[発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。]

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

研究成果の一部（概要の前半に記した質的分析の一部）は、“Professional Development for the Special Education Teachers” World Association of Lesson Studies International Conference 2014, at Universitas Pendidikan Indonesia, Bandung, Indonesia での Plenary Speech（基調講演）として発表済。その他の成果は、東京学芸大学紀要または教育学、特別支援教育学関連の学術誌に投稿予定。